

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 20

2016年12月20日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

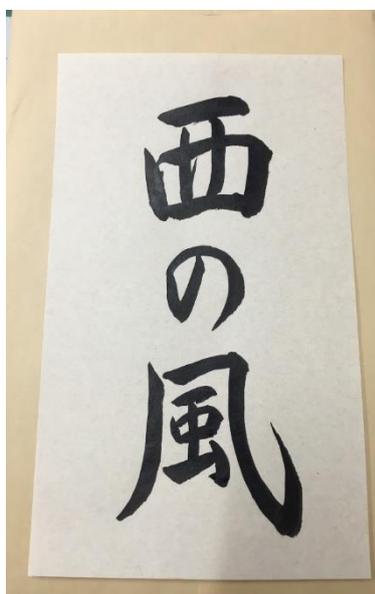
住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

「西の風」

第2ブロック 芳井正彦

新刊本のタイトル?。新しい気象用語?。どちらも違います。これは西ネット第2ブロックの別称(愛称・ネーミング)です。2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。エンブレム・競技施設建設では様々な問題が露呈しましたが、それらを解決して大成功を願います。スポーツ界では〇〇ジャパン、△△ジャパン等々、昨今はネーミングブームであり、NHK大河ドラマ・真田丸の幸村六文銭のぼり旗も一種のネーミングだと思います。



このようにチームや団体は象徴的なものを掲げて、そのもとに心を寄せ、一丸となって目的に向かうという傾向があるのだらうと思います。第2ブロックも28年度の活動を始

めるにあたり、エンブレムかロゴマークを作り、それを旗頭として団結を図りながらも楽しく活動を推進していこうと決定したのですが、デザインのセンスが無いためにネーミングの方を募集しました。

独創的なもの、奇抜なもの、凝ったもの、意味不明なもの等々多数寄せられました。「西」は残したいね、第2の「2」も残したいねとワイワイ検討しているうちに、「西の風」はどう?という案が出て、一同「いいね」ということで決定しました。感覚的にふあーっと決まったネーミングというだけでなく、意義付けを考えてみました。小平市の始まりは、約360年前8代将軍徳川吉宗の時代に初めて開かれたのが小川村で、その後、鈴木新田・回田新田・野中新田と次々村が開かれていったという歴史的事実があります。西ネットにおいても小平の西域(小川町1丁目西部・上水新町1丁目・中島町)の第2ブロックから『幸せの風』を送り明るく、楽しい、元気な地域づくりを率先して推進していくとの気概を込めています。

8月28日の曙光園納涼祭でNゲージサークルと協賛で鉄道模型を走らせて、「西の風」のデビューです。続いて10月15日の12小楽縁祭はこだいら自由遊びの会と共催で出展(別掲)、10月22日黎明寮秋祭りに再び鉄道模型を出展(別掲)しました。スタートした

小平西地区ネットワークって何?

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加しませんか?

ばかりで認知度はまだまだ低いですが、結構人が集まり喜んで頂き、まずまずの滑り出しだと思っています。

第2ブロックには「けやきの郷」と「やすらぎの園」があり、けやきの郷では第4木曜の午後から「けやきかふえ」を開催しており、地域の方々に参加への声掛けをしています。その両施設から、有難いことに第2ブロックの活動にお使い下さいとおっしゃって頂いています。環境もだんだん整ってきました、マンパワーも多才な人が揃ってきました、明年3月に西ネットの5周年を迎えるにあたり、第2ブロックとしても次の段階の活動を考える時期かなと思っています。

「西の風」の皆さん、一緒に考えましょう。

追悼

去る11月14日、早田 満さんがご逝去さ

れました。

早田さんは、西ネット発足当時から第2ブロックの世話人として一緒に活動してまいりました。特に防災には力を入れられ、黎明会と東小川橋地区防災対策連合会を結成し、地域を守る活動をされてきました。子供の頃から防災教育が大切であると、今、小学校で広がりつつある「防災クエスト」も早田さんのご尽力が無ければ実現しなかったのではないかと断言でも過言ではないかと思えます。まだまだご一緒に活動し、色々教えて頂きたく思っていましたところで誠に残念です。

早田さんのご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、謹んでお知らせ申し上げます。

合掌。

「地域のネットワークについて」

小川公民館館長 小山 豊

小平市には公民館が11館あります。そのうち小川公民館は地区館第1号として昭和45年5月に開館し、その後、平成8年12月に現在の場所に移転し2代目です。

公民館のおもな仕事は、サークル活動への部屋の貸出し以外に、社会教育として自館で講座を主催しております。



シニア講座・家庭教育講座・ジュニア講座・夜間講座・サタデー講座・地域連携講座など、内容も様々です。

このような講座に、市内で活躍されている方を積極的に講師に迎えるようにしております。

す。

ところが、そのような講師の方を探すにも、個人の方では限界があります。

そこで地域の方からの紹介や地域のネットワークが重要になってきます。

今年度から、事業企画委員会というものを立ち上げ、地域でご活躍の方々に出席していただき、翌年度の講座の内容や講師などを話し合いによって決定しました。

また、11月12日(土)・13日(日)に「小川公民館まつり」を実施しましたが、ここでも地域のつながりを深めるということで、近隣の白梅幼稚園園児、白梅学園清修中高一貫部生徒、小平一小児童、小平五中生徒の作品をお借りして展示いたしました。

更に、まつりの「体験コーナー」では、白梅学園大学の学生さん達にプラバン作りをお手伝いいただきました。来館された子どもたちにやさしく丁寧に教えてくださりとても楽しそうでした。

このように、公民館の講座やまつりなど様々な活動には、地域協力なしでは難しいものとなっております。

朝鮮大学校創立 60 周年記念学園祭

朝鮮大学校学生委員会

11月13日、朝鮮大学校創立60周年記念学園祭が、3700名の参加のもと盛大に行われました。「見る」、「食べる」、「遊ぶ」三つテーマのも



と大学内各所で多彩な企画が行われました。

中庭に設置された中央舞台では第1部「民族教育で培った青春の力」、第2部「朝・日親善の明るい未来」というタイトルで朝鮮舞踊や民族楽器、テコンドーや空手の演武を披露し観客たちを魅了しました。また結成11周期を迎えた「朝・日大学生友好ネットワーク」は明年に朝日大学生による朝鮮訪問団を結成するという宣言文を発表しました。

朝鮮大学校名物の炭火焼肉やコリアングルメを提供した屋台は、完売が続出するぐらい大盛況

でした。特別展示会では朝鮮大学校、民族教育の沿革史と日朝大学生友好ネットワークの活動などを紹介するパネルが展示されました。また、この日特別公開された朝鮮自然博物館と朝鮮歴史



博物館にも数多くの人々が訪ねてきました。朝大と武蔵野美大の学生が共同企画したクロツラヘラサギの影絵アートも多くの関心を集め大盛況でした。

小平の地で半世紀以上の歴史を紡いできた朝鮮大学校はこれからも地域の皆様の温かいご支援のもと、より一層邁進してまいりたいと思います。どうぞよろしく願い申し上げます！

今年度第2回地域懇談会報告

一障がいを持った子どもと生きる一

子どもサポートあすなろ 鈴木操

9月27日(火)今年度第2回の地域懇談会が開催された。出席者は35人ほどであったが、講師の鈴木さんの話と後半のブロック会議合わせてお互いの意見交換と学びができたと言える。鈴木さんからは障がいを持った子どもと生きる大変さと楽しさを報告していただいた。以下その概略である。なお、後半では4つのブロックごとの集まりを持って、それぞれの地域の取組み等を交流し、ブロックとしても意見交換が行われた。

教員をやっていたが二人目の子どもが障がいを持って生まれたことで、子どもに向き合うことを決意して小学校の教員を9年でやめた。子どもが障がいを持っていることに対して、いろいろな人が親切に対応してくれたが、身近なところでも障がいを持って子どもが生まれたことに対して非難もあった。

当初は子どもが理由で役員などを避けていたが、あすなろの家に係るようになって、子どもが小学校に入学と同時に家と学校、そして病院を回る生活になる。1学期で仕事をやめて、子どものサポートに専念する中であす

なろの家と関わるようになった。あすなろの人たちが家庭の中まで入ってきて色々と支援してくれるのでとてもありがたかった。

NPOの代表になって、障がい児の放課後のデイサービス支援を継続したが、就学前の障がい児についても引き受けていこうと東京都に申請して引き受けることになった。お母さん方と接していて、人が家の中に入り込むことには抵抗があるが、自分にとって大事と思えばその気持ちを越えてこちらを頼ってくる。そこで信頼関係が生まれてくる。

小平では平成18年の障害者自立支援法というのの成立を受けて、それを機会に障害者団体連絡会(以下「小障連」)ができていて、30以上の障害者団体が参加している。そこで力を出し合って行政との交渉と行っている。基本的な前向きな姿勢を「検討する」という言葉で書き込ませ、相談支援などに具体的な力を発揮できるようにしたい。西ネットでは第一ブロックの一員として、障害者センター祭りや十三小地区防災訓練等に参加して顔の見える関係を築きたい。

黎明寮秋祭りー『西の風』秋祭りに吹く！ー

10月22日に黎明会のグラウンドにて、黎明寮主催の秋祭りが開催されました。当日は老若



男女合わせて700名を超えるイベントにブースを設置して、地域の皆さまとの交流を行いました。

今年は、近くにマンションが建ったこともあり、子どもの参加の出足も早く、『西の風』

のNゲージのブースで目を輝かせて電車の動きをみている姿が印象的でした！「自分で動かしているよ」という声掛けに、緊張した表情で触りはじめ、次第に広がる笑顔！

普段は、近くに住んでいるけど、声を交わす機会も少ない世代がその枠を超えて共通の目的に夢中になれるという瞬間は、子どもを成長させ、大人を童心に戻してくれる素晴らしいものだと感じました。

お祭り自体には、小平市内の障がい当事者の方の就労している作業所や、入所施設などのブースの出店もあり、お手伝いをしてくれた学生さんからも、「あそこの作業所で実習をしたことがある」等、地域でのネットワークをみる機会にもなったようです。

また、ステージでは、かわいらしい小中学生のダンスや、おどけたピエロのパフォーマ

ンス、勇壮な昭島太鼓など、それぞれが見ごたえのある演出を繰り広げていただきました。

普段の生活の中では、導線がなかなか合わないことが多い人たちが、一堂に会してひと時の時間を楽しむ地域でのお祭りに、黎明寮秋祭りが根ざしていき、そこに今後も『西の

風』を含め地域の方々が参加していただければ、黎明寮で生活をする方や黎明会への理解も深まると思いますので、今後とも変わらぬご支援をお願いいたします。

十二小の「楽縁祭」に参加

2ブロック 足立隆子

昨年に続き10月の第3土曜日に「楽縁祭」に参加しました。食べ物屋さんの出店は多くあるため、何か遊びができるようにとのリクエストに応え、工作のコーナーを出しました。一つはハンノキの実に黄色の羊毛と小さな羽を付けた蜂を、ストローの先に糸で付けたおもちゃです。貧しい若者がわらの先に糸で蛇を付けて持っていたら、お金持ちの子どもがほしがり、蜜柑と替えてもらったのが始まりで、次々と交換を繰り返すうちに長者にまどなった「わらしべ長者」というおめでたい昔話を思い出させるおもちゃです。

もう一つは手のひらサイズのボールの中に水槽の底に敷く小石を入れて作るジャグリングボールです。カラフルなボールで小さい子がお父さんやお母さんと楽しんでいました。

こうした静かな工作遊び以外にもベーゴマ、コマ回し、ジャグリングのディアボロという遊びのコーナーもあって、競い合う遊びも提供しました。

2ブロックは世話役の芳井さんの提案で「西の風」という名前を掲げました。2ブロック



で開催される黎明会、曙光園、上宿小などのお祭りにも積極的に参加していますが、グッとチームワークもよくなった気がしています。

ケアの集い

一鷹の台団地小平・国分寺自治会主催

岩井洋



11月20日の午後、鷹の台団地小平・国分寺両自治会の主催により、地元の集会所で「ケアの集い」が開催されました。スタッフ含めて40名の集まりでした。

まずは映画「おじいちゃんの季節」上映。以前、白梅で上映されたものです。自治会で映画は初めてでしたが、見慣れた風景が出てくることで皆さん楽しんで頂けたようです。その後、当団地を担当する小平・国分寺の地域包括の二人から、介護関連サービスの説明がなされましたが、実際の利用者が数名だったせいか、ピンと来ない人もいました。資料

は小平・国分寺両市発行のモノを用意しましたが、書き方などが異なるため、説明が多少混乱した感がありました。また、最近始まった総合事業への取り組みも両市間で異なるため、その説明は難しかったようです。なお小平側の担当者には、新緑の会とけやきカフェの紹介もして頂きました。

入口で杖を立て掛け、お互いの体をいたわる挨拶をする姿をお見かけすると、こうして集まることの意味を改めて考えます。全聾の方もいました。耳が聞こえない人に映画は辛かったかもしれません。最後に、「ボケ防止には体を動かせ！」とばかり、毎朝地元で行っているラジオ体操の紹介をしたら、それが一番ウケていました。元気な年寄りが多いものです。主催者としては、何事もなく終わったことにホッとしています。天気にも恵まれ、様々な方が来られました。ノーマライゼーションの観点から、その方々にどのようなおもてなしを準備すべきか？様々な課題の見えた「ケアの集い」でした。

こうやって勉強してみたら

「分かった会」講師 榎原 順司

現在、約20人の中学生が「分かった会」に来て学習をしています。個々の生徒の学習の力の幅も広く、自分で課題を見つけ黙々と学習する生徒もいれば、学校の授業が分からな



く講師の指導を受けながら学習する子がいるなどさまざまです。

生徒の多くは、数学と英語に苦勞をしてい

るようです。数学は計算問題は解けるが、文章題や図形の証明問題になると、とたんに「分からない」と言う生徒が多くなってきます。文章題は難しいという先入観からか、解けないと決めつけてしまう。計算問題に比べ、文章題は練習量が少ないため、やり方がわからないようです。

同じく、図形の証明問題も最初から自分ではできないと諦めてしまう傾向があるようです。証明問題もやってみると意外に易しい問題もあります。易しい証明問題を多くやってみることも一つの方法です。

次に、英語のほうは、発音問題と自由作文問題、そして長文を読み取る問題が苦手のように。発音は日本語にない音が英語にあるので、微妙な音の区別ができないようです。自由作文も最近よく英語の試験に出てきます。平易な日本語で考え、それを英語にしてい

練習が必要です。長文も訳すのではなく、内容を把握する練習が必要です。

「勉強は分らないところは教えてもらう。分かったところは自分で繰り返し練習する。これの繰り返しだよ」と生徒に心がけさせています。

-
最近の「分かった会」たより：

現在、中学生 21 人、小学生（6 年）9 人の計 30 人と、講師 15 人で教えています。木曜日のほかに、火曜日にも中 3 の希望する生徒

数人を対象に講座を開いています。講座回数は今年末で 149 回、9 月から始めた火曜日講座を含めると計 165 回になります。開設してから 12 月初めで 4 年目に入ります。12 月 22 日の今年最後の講座の後半は恒例のパーティ。生徒・講師・保護者を含めてにぎやかな楽しいイベントを開きます。

西ネットの皆さんの講座見学や参加を期待しています。

「分かった会」代表：奈良 勝行

今年の白梅祭

大学世話人 瀧口 優（保育科教員）

白梅学園大学・短期大学の主催する白梅祭は 10 月 22 日（土）・23 日（日）に開催され、今年 53 回目をむかえ、テーマとして「輪～つながる～」を掲げました。小平西地区地域ネットワークとしても 5 年目の取組みをすすめました。今年は会場が例年の F12 教室から B21 実験室ということで広さが半分以下になり、顔の見える交流を基本にして準備を進めました。

展示物としては、「小平西地区地域ネットワークとは何か」「活動地域の紹介」「広報紙『小平西のきずな』の紹介」、そして各ブロックからそれぞれの活動等を 1～3 枚のボードに紹介し、地域の活動も一部紹介しました。



今年の特徴は、例年展示の外れの方に有ったので、通りがかって見学するという事は少なかったのですが、今年は通りすぎりに見学

する人が結構いました。特に学生が初めてこの活動を知って関心を持ったという報告もありました。また例年のように各地で地域づくりに取り組んでいる方々が、今年はどうなっているのだろうという思いで参加しているという報告もありました。



学園祭実行委員会として地域などに宣伝はしていますが、西ネットとしては地域懇談会参加者を中心に案内を出しただけで終わっているのもう少し広く呼びかけるような取り組みが必要なのではないかという声が地域世話人や大学世話人からも上がっています。来年度の課題としたいと思います。

白梅子育て広場「あそぼうかい」開催

白梅学園大学発達臨床学科 1年 石井 奏

11月26日（土）午後、白梅学園大学において子育て広場「あそぼうかい」が授業の一環として学生中心で開催され、130人を超える地域の方々の参加がありました。親子だけでなくディサービスの高齢者や障がい者等も参加して、世代間交流が行われました。

今回のあそぼうかいは、今年度で3回目、そして最後の催しということで、「1年間の集大成」を目標に設定しました。私は入学してから、準備を始めた9月までの約半年間、演習の授業



以外にも、白梅子育て広場の他の企画に参加させていただきました。しかし、これまで代表やコーナーリーダーをやった経験は一度もなかったため、発足当時はまさに、右も左もわからない状況でした。



私がぶつかった大きな壁は、参加学生の多さです。約70人の学生をまとめるのはたやすいことではありませんでした。ここまでの人数がいる組織だと、個人間で企画に対する温度差は生まれることは当然です。ですから、今回はできるだけ多くの学生と直接かかわることを心がけました。代表の仕事はもちろん、各コーナーの

準備や会議に積極的に参加しました。他にもたくさんの学生とコミュニケーションをとり、意見交換を重ねることで、最初どう動くべきかわからなかった私も、次第に足が動くようになっていきました。「人の数だけ考え方がある」ある卒業生の方の言葉です。私は、それぞれの思いを引き出すためには「人の数だけ人にかかわっていく」ことが大事であると、強く感じました。

今回のあそぼうかいは、多くの人の発想を引き出し、取り入れることができました。より大勢で力を合わせてつくり上げた今回のあそぼうかい。「1年間の集大成」という目標は達成できたのではないのでしょうか。そして、大きなものを行った分、多くの反省点が残りました。演習の授業はもう終わってしまいましたが、私はこれからの広場活動、将来に向けて、今回得た大きなもの、反省を胸に、これからも一步一步前に進んでいきます。

11月8日 コミュニティカフェ

白梅学園大学家族地域支援学科 2年 真々田 桂都



私たち白梅学園大学子ども学部家族・地域支援学科の二年生は前期に続き、11月8日に

オリーブの方々をお招きしたコミュニティカフェを開催しました。約20人の利用者の方とその倍ほどの学生、全体で60人ほどが一緒にできるレクリエーションなどをおこない過ごしました。レクリエーションの内容は、学生が新聞紙とペットボトルを使って作った『わなげ』と、指定された部首を使った漢字をどれだけ書けるかを競う『漢字あてゲーム』の2つです。輪投げは学生でもなかなか入ら



ないという難易度だったのですが、利用者の方は次々に得点を取っていき、なんとパーフェク

トを取った方もいて、大きく盛り上がりました。漢字あてゲームでは学生と利用者さんが一緒になって話し合い「そんな漢字ある？」や「あー！それだ！」など、世代を超えて盛り上がっている光景が見られ、学生でも思いつかなかった漢字をスラスラ書いていく利用者さんには学生も驚いていました。人生の年輪を感じた一時でした。

ほっとスペースさつき第8回学習会

「フレイル」って、なあに？ いつも、いつまでも「元気」を目指して！

家族・地域支援学科 森山千賀子

皆さま、「フレイル」という言葉をご存じですか？日本語では、虚弱、脆弱（ぜいじゃく）、衰弱などと訳されてきました。2015年5月、「日本老年医学会」から統一した日本語訳として提唱された言葉が「フレイル」です。

第8回目のさつき学習会は、2016年9月10日（土）10時～11時半の時間帯で、白梅学園大学のI13講義室で行われました。今回は、社会福祉法人緑風会理事長・緑風荘病院院長、酒井雅司医師をお招きし、「フレイル」をテーマに講演会を開催しました。また、同法人から管理栄養士の方、地域包



括支援センターの職員の方も同行され、食生活において気をつけることや健康体操も紹介され、80名程の参加者が、講演とともにリズムによって脳と口と手足を動かしました。健康体操では、手足の動きと口の動きがアンバランスになる場面もありましたが、そうした

ことに気づくことも脳の活性化につながり、笑いありの一時でした。

フレイルの状態を早期に発見し、早期に対応することで健康寿命を延ばすことができると思います。前向きに頭と体を動かし、元気に過ごしてゆきましょう。笑う門には福来たる。

どうぞ、良いお年を。

酒井雅司医師



健康体操の様子

朝の体操会・10周年を迎えて

中国健康法普及協会

上水公園代表 櫻田 誠

白梅幼稚園の向かいにある上水公園で体操を始めたのが、平成18年10月からでしたので、今年で10周年を迎えることができました。私が、健康の為何か身体を動かす運動をしなければと考えていた時に出会ったのが、中国健康法普及協会でした。まさに願っていた通りの体操でした。

名前の通り中国の上海の医師「莊元明師」が創設した体操で、中国の政府が認めた体操の1つです。他に、有名な太極拳と中国のラジオ体操がありますが、月曜日から土曜日まで雨や雪が降らない限り午前9時から行っておりま



す。今や前世界で1千万人がやっているといわれております。何と言っても、高齢者向きです、激しい動きでなく、ゆったりと身体を動かします。難しい動きでないので、一ヶ月も続ければ覚えられます。上水公園の現在の会員も50代から80代30名余りが会員となっております。毎日来てもいいし1週間



に1日来る人といろいろですが自由です。

入る時は、入会金1,000円と年会費2,000円です。現在中国健康法普及協会の会場も80か所と2,000名を超える会員を抱えて、小平市をはじめ近隣に広く広まってきました。

さつきバザー開催

家族地域支援学科 午頭 潤子



た。当日は、白梅学園大学家族・地域支援学科の森山ゼミ3年生もボランティアとして参加させていただき、スタッフや来場者と楽しい時間を過ごさせていただきました。



11月6日、コミュニティサロン・さつきのバザーが開催され、地域の子供からお年寄りまで多くの方が参加され大盛況のうちに終了いたしました。日曜日にも関わらずお越しいただいた皆様には、改めまして御礼申し上げます。皆様から持ち寄せられた数々の雑貨、食器や小平産の野菜、洋服等が室内・庭に並び、バザーならではの活気がみられました。珠のお手玉手芸キットや、大人の顔より大きなぬいぐるみも多数出展されており、来場者は思い思い買い物を楽しまれておりまし

小平の歴史⑧ 小川村地割図を読む

<延宝2(1674)年頃>

蛭田廣一氏（元小平市市史編纂課長）

地割図を見るとわかるのですが、青梅街道に沿って10間前後の幅ですが、一人の人が玉川上水から野火止用水まで土地を持っているのですね。これは1軒分なわけですよ。だから細かく地割する必要がなかった。それが1軒分の所有地としてずっと守られてきたのですね。江戸時代は土地の売買はできませんから、半分を隣の人に譲るなんてことはできない。代が変わって他の人が手に入れるなんてことはあったのですが、細かく割ることはできないのですね。屋敷と畑をセットでないと土地の所有の移転ができなかった。土地を質に入れて所有を移転することはあったのですが、小川九郎兵衛の権限はものすごく強かったと言われています。小川村の場合には小川九郎兵衛に土地の返信証文がたくさん残っています。つまり土地の権利は小川家が持っていて、それを貸し出しているという形になっていたのです。

小川九郎兵衛は資材を投じて、用水などを整備し、百姓たちは小川九郎兵衛が開発した土地を借

りて耕作するという生活をしてきているので、土地の形がそのまま残って横の道が出来なかったのではないのでしょうか。お互いが畑を横切ることは当然のこととして耕作が行われたわけですよ。

もう一つ、鷹の街道ですが、この地割図には書いてないのですよ。実は非常に古い道なのです。実際には存在するのです。この後の時代に書かれた地図にははっきりと書かれているのです。この地割図は青梅街道の周辺を明らかにすることで、余分なものは書かれていないのです。

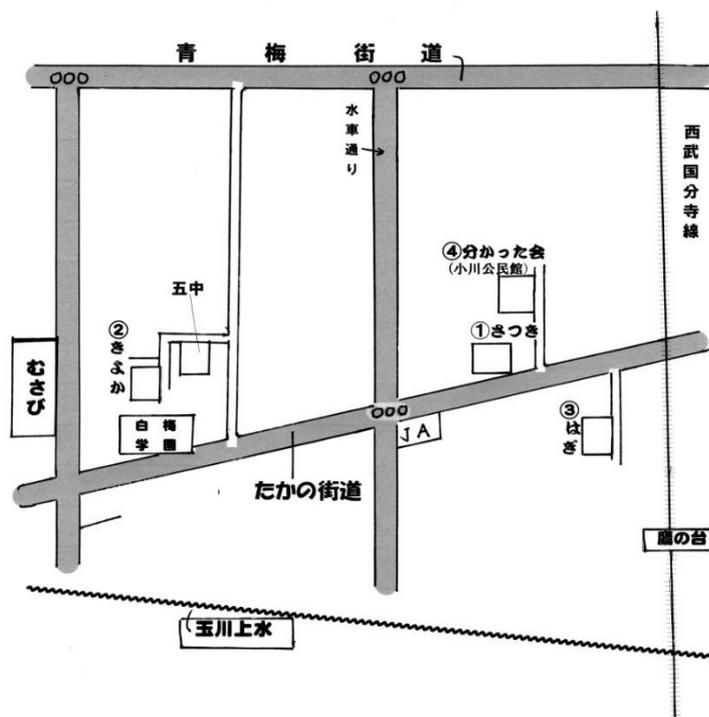
（文責：瀧口優）

*「小平の歴史」については今号で終了しますが、紙面では取り上げきれない歴史があります。今後また小平について紹介するような機会がありましたら紙面に反映したいと思います。白梅学園大学では「小平学」について研究するところもスタートしようとしています。いずれこの紙面で紹介できたらと思います。

皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか？

お待ちしております！（右の地図を参照）

- ① ほっとスペースさつき
毎週火曜と木曜 10:00～16:00
問い合わせ：渡辺 穂積
TEL: 042-344-7412
- ② ほっとスペースきよか
毎週月曜 10:00～15:30
問い合わせ：石川 貞子
TEL: 090-7732-2089
- ③ アットホームはぎ
毎月 7, 17, 27 日：14:00～17:00
問い合わせ：萩谷 洋子：042-342-1738
- ④ 「分かった会」小中無料学習教室
毎週木曜日 18:00～20:30（小川公民館）
問い合わせ：奈良 勝行（講師募集中！）
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ 子育てサロン「うちカフェえん」
毎週月・水・木・土 10:00～15:30分



問合わせ：伊藤絹代
TEL: 090-5441-6219

イベントの予定

- 12月22日(木)「分ったかい」クリスマスパーティー
- 2月5日(日)白梅介護福祉セミナー
- 2月10日(金)たいよう福祉センター地域懇談会
- 3月11日(土)西ネット地域懇談会(5周年)

西ネットの今後の予定

- 学内会議：1/10, 1/31, 2/28
- 世話人会：2/14
- 懇談会：12/20, 3/11

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・ 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・ 久保田進・穂積健児・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 瀧口真央・西方規恵 牧野晶哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・杉本豊和 森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

投稿募集：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール：ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記：9月から様々な行事があり、20号は12頁になりました。地域の行事が少しずつ見えて来ていて、編集していて楽しくなりました。3月は5周年の集いを予定しています。(瀧口優)